



《日月四季図》右隻 桃山時代末期
—第2展示室 春の優品選より—

- 婚礼調度の美 前田育徳会尊經閣文庫分館
- 春の優品選 第2展示室(古美術)
- 石川の工芸Ⅲ 食を彩る 第5展示室(工芸)
- 石川のアート 近代編 第3・4・6展示室(絵画・彫刻)

- 2月前半の展覧会
- ミュージアムレポート
- 2月の企画展示室
- 2月の行事予定
- 平成28年度 友の会会員募集
- アラカルト ただいま展示中

春の優品選

2月18日(木)～3月26日(土) 会期中無休

今回は武と文の視点で作品を選定し、一部に春の季節感も織り込んでみました。展示作品で最初に注目いただきたいのは、本号表紙に右隻を掲載した《日月四季図》です。本作は、右隻に桜と柳、左隻に楓と松を中心に描き、籬と垣を大きく配して四季の草花を交え、右隻から左隻後景の雪を戴く松に至る季節の推移を表し、右隻に一部金雲に隠れた日輪、左隻に三日月を添えています。このような画面の構成は、室町時代十五世紀末頃から多く描かれた日月屏風の系統であることを示しています。ハレの場の道具として「長生殿の裏には春秋富めり、不老門の前には日月遅し」との『和漢朗詠集』の詩句を念頭に、理想的な四季の庭を描いたものと考えられます。筆者は未詳ですが、桃山時代末期

の作と判断されます。続いては、狩野常信筆《義経図》です。本作は、屋島の戦いを前に愛馬・太夫黒に騎乗した義経が、牟礼の海岸から高松の方を眺めたという義経伝説に基づくもので、この構図は「義経牟礼高松図」とも呼ばれています。屋島の戦いが旧暦二月十九日に行われたことにちなみ、今回展示します。武の視点から、刀剣も選びました。今回は、加賀の地で作られた加州刀から室町時代十六世紀の勝家、勝光そして清光の優品を合わせて四口展示します。そして文の視点からは、県文の《手鑑》をはじめ古典文学に関連した絵画、漆芸作品と、能装束を選びました。こちらの見所につきましましては、次号で詳しく紹介いたします。



狩野常信《義経図》

婚礼調度の美

2月18日(木)～3月26日(土) 会期中無休

婚礼調度とは婚礼の際に女性が嫁ぎ先へ持参するもので、大名家では統一された意匠と家紋が施された豪華な蒔絵装飾の婚礼調度の数々が準備されました。その内容は、三棚、化粧道具、香道具、文房具、遊戯具、飲食道具、その他の調度品など膨大なものでした。

前田家では徳川將軍家からの輿入れが多々ありました。それは將軍家にとって、外様大名で大藩の前田家を配下に与するために、姻戚関係を結ぶことが必要不可欠の方策だったからです。三代藩主利常へ二代將軍秀忠の二女珠姫(天徳院)の輿入れにはじまり、四代光高に水戸藩主徳川頼房の娘阿智姫(三代將軍家光の養女・大姫)が、五代綱紀に保科正之の娘磨須姫(二代將軍秀忠の孫)が、六代吉徳

に尾張藩主徳川綱誠の娘松姫(五代將軍綱吉の養女)が、そして幕末の十三代齊泰に十一代將軍家斉の二十一女溶姫が輿入れしています。前田育徳会には溶姫(二八一三～六八)の婚礼調度がまとまって所蔵されています。松唐草文を圖案化した意匠と徳川家の「葵紋」が蒔絵されています。江戸時代後期の大名家の婚礼調度の華やかさを今日に伝えています。なお、現在の東京大学・赤門(重文)は、文政十年(一八二七)十一月に溶姫を迎えるに際し、加賀藩が御守殿門として建てたものです。

なお、兼六園に隣接する成巽閣では「前田家伝来雛人形雛道具特別展」(二月四日～四月十八日)を開催中ですので、前田家の女性たちにゆかりのある作品の数々をあわせてお楽しみください。

《松唐草葵紋蒔絵調度品 大・小角赤手箱》溶姫所用

第6展示室

石川の美術 近代編

2月18日(木)~3月26日(土) 会期中無休

平成二十七年度は金沢が観光地であることを思い出させてくれた一年でした。北陸新幹線の開業で日本中のメディアが北陸特集を組み、兼六園や近江町など人気スポットには観光客があふれました。

当館もこの状況を看過するわけにはいきません。所蔵品を活用し、石川の美術が持つ魅力を内外に発信。「通好みの人気スポット」としてだけでなく、広く親しまれるよう努めました。絵画・彫刻の展示でも、通り一遍の「優品選」にならないよう、様々な角度から石川の美術にアプローチをこころみたくもります。これらの展示を通し、石川の絵画・彫刻が、多様かつ質の高い表現活動を展開してきたことをご覧いただけたと思います。

その石川の絵画・彫刻の淵源を探るには、明治・大正期いわゆる「近代」に焦点をあてる必要があります。とくに明治二十年開設の金沢工業学校（現在の石川県立工業高等学校）と、大正十三年に発足した金城画壇の存在は見のがすことができません。金沢工業学校の初代校長納富次郎は、中央画壇から教授陣を招き、東京藝術大学に多くの俊才を輩出しました。実力派の画家がこの時期金沢に集結したこと、そして多くの若手がその薫陶を受けたことは、本県美術界の発展に大きく寄与するものでした。

金城画壇、そして近代彫刻家の活躍については紙幅の都合上、次回に稿を改めたいと思います。



鈴木華邨《竹梅図》

第5展示室

石川の工芸Ⅲ 食を彩る

2月18日(木)~3月26日(土) 会期中無休

石川県立美術館では六〇〇点以上の陶芸作品、二〇〇点以上の漆芸作品を所蔵しています。館に収蔵される前は実際に用いられていたものもありますが、とりわけ近現代の工芸作品は、ほとんどが鑑賞と展示を目的として制作されており、何かをのせるというよりも、独立した存在として、美しい形に華やかな装飾が施されたものです。今回の第5展示室では、伝統九谷焼工芸展等に出品された陶芸作品を中心に、器本来の用途を見直し、新しい時代の食を新しい器で彩る、という方向で作品を選んで展示します。

二年前に和食がユネスコ指定の無形文化遺産に登録され、日本の食は世界から注目されていますが、伝統的な食材や技法を踏襲する一方、近代

以降に日本で手に入るようになった素材を使ったり、諸外国の調理技法をアレンジした創作和食も増え、一言で和食とまとめられないほど多様化しています。この展示は新しい時代の食、例えば様々な変化を遂げたお菓子などにあわせて、器を見立てるといったテーマを立てました。近年の陶芸作品は大型化しており、伝統的な懐石料理に用いることは難しいですが、造形的な形や鮮やかな色彩の食材との出会いで生まれる、伝統工芸の新たな可能性を探ります。

三月六日から始まるミュージアム・ウィークの期間に併せて二月下旬からは、実際に和洋のスイーツをのせて撮影した作品のパネルを、展示室内の壁面に展示します。



吉田幸央《彩色金銀彩波線文平鉢》

干支の造形

平成二十八年「申年」も明けてひと月が過ぎようとしています。皆さま、本年もよいスタートをきることができただでしょうか。

さて、近現代の絵画・彫刻から、干支の動物に関係する作品を特集した本展示も、残すところあと半月となりました。今年の干支「申・さる」だけでなく、十二支すべてにちなんだ作品の数々を一堂に鑑賞できる展示室は、なかなか面白いものになっています。見て納得の作品もあれば、「はて、これはなんの干支？」と首をかしげたくなる作品もあります。動物をえがいたものならではの牧歌的な作品や、つい口元がゆるむユーモラスな作品をご鑑賞下さい。その中で干支の動物を探したり、主題から干支を読み取ったりするのも、きつと楽しい時間になるはずですよ。

新春を寿ぐ

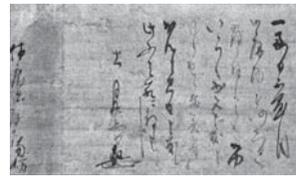
今回は新春にちなみ、広義の吉祥図を取り合わせ展示しています。特に絵画では王若水、雪舟や岸駒などの大作が目を引きまします。対象を大胆にクローズアップする表現の系譜として、十五世紀から十九世紀の絵画史を飛び石のように俯瞰することができまします。また画面を観察すると、そこには様々な吉祥モチーフが入念に組み合わさっていることが確認できます。各々の作品に、幸福を願う発注者の熱い思いがこめられていることを思うと、それらの取り合わせによって、展示室にはより大きな吉祥パワーが満ちているかもしれません。善いものは美しいものであると考える、人間の知恵にも改めて思い至ります。

そして今回は、加賀藩主・前田家ゆかりの天神画像も展示しています。学問・芸道の神として、本格的な春の到来を待つこの時期にふさわしい展示ではないでしょうか。これだけの作品が一堂に展示される機会は、なかなかありませんので是非ご覧ください。

2月前半の展覧会 平成27年12月10日(木)～平成28年2月14日(日) 会期中無休

二月三日は、戦国時代のキリシタン大名で利休七哲の一人、高山右近(一五五二～一六一五)の命日です。昨年は、「没後四〇〇年記念高山右近とその時代」を開催しました。右近は、豊臣秀吉の伴天連追放令(一五八七年)による畿内追放から、徳川家康のキリシタン禁教令(一六一四年)によるマニラへの追放の身となるまでの後半生二十六年を、利休ネットワークにより親交のあった加賀藩祖・前田利家の保護を受け、この加賀の地で過ごしました。加賀藩の重要な家臣として、茶人として、そしてキリシタンとして、その生を全うした右近の《書状》(写真)を展示しています。

新調した鶴の羽帯(茶事の炭点前に使用する「清めの道具」)を披露する茶事への招待状です。その他、加賀藩ゆかりの茶道具の名品をあわせて展示していますので、茶の湯に培われた当地の文化を再確認いただければ幸いです。



金沢市文庫《高山右近書状》

今回の展示も、会期が残り二週間あまりとなりました。一月四日からは、染織作品四点と截金(きりかみ)作品一点を入れ替えております。

当館の近現代工芸の作品は、陶芸、漆芸、染織、木竹工、金工、刀剣、人形、截金、その他に分類されており、このうち、染織、木竹工、人形、截金は材質が光に弱いので、長期の展示では作品の入れ替えをする場合があります。展示ケース内の照明も落としています。一方で、陶芸や金工は比較的、光に強いので、明るめの照明でごらんいただくことが出来ます。美術館は、作品の展示とともに保存も重要な使命です。両方のバランスを取りながら、皆さまに作品をお楽しみいただけるよう試行錯誤をしています。

新春優品選 [工芸]

新春優品選 [古美術]

ミュージアムレポート

キッズプログラム

『干支の造形—書に挑戦!—』

十二月二〇日に、キッズプログラム『干支の造形—書に挑戦!—』が行われました。「干支の造形」展の鑑賞と参加者にも干支の書を書いていただき、「干支の造形」に参加して頂こうという企画です。小学生親子を対象としたキッズプログラムですが、今回の参加者は未就学のお子さんをはじめ、保護者の方もお父さん、お母さん揃って参加するなど、大変多くの方の参加がありました。まずは、干支についての話の後、展示室で自分の干支の作品を探しました。その後、絵画では日本画、油彩画、版画などの作品の種類や画材の紹介、彫刻では素材の違いにも注目してみました。そして、いよいよ干支の書の体験です。干支の「子」を例にとり、「子」と「鼠」の二文字を、漢字が生まれた頃の甲骨文字から現在使われている形までの数種類の書体と、ひらがなの「ねずみ」までいろいろな文



字のお手本を用意しました。参加者はその中から好きな文字を選んで書きます。書体を変えて自分の干支にこだわって書く方、家族みんなの干支に挑戦する方など、それぞれが複数枚書いて干支の書を楽しみました。書の体験講座は今回初めての開催でしたが、書の体験への関心から参加した方からも「美術鑑賞が楽しかった」「親子のふれあいがある美術を通して出来た」との感想を頂き、新たな方に美術鑑賞の魅力を体験していただく講座にすることが出来ました。また、この書の体験は一月四日の新春企画として午前と午後の二回、ご来館したごなたでも参加できる講座としても行いました。小学生から久しぶりに筆を持ったとおっしゃるご年配の方までたくさんの方にご参加いただき、美術館での書き初めを楽しんでいただきました。



企画展 北陸新幹線開業記念

工芸にみる石川の巨匠

—芸術院会員・人間国宝の名品選—

1月4日(月)~2月14日(日) 会期中無休

一般的に、完成された工芸作品を鑑賞するとき、そこに駆使されている作家のわざを見出すことは、専門家でもない限り容易ではありません。極端に言えば、わざは目には見えないものであつて、その技術だけを取り上げて評価することは鑑賞の範疇に入らないといえるかもしれせん。長く厳しい修業を経て、高度なわざを身に付け、制作に反映したとしても、出来上がった作品それ自体に、作家個人の独創性が発揮されていないと、なかなか評価の対象とはなりにくいでしょう。むしろ、難しいわざを使ったという痕跡をできるだけ感じさせず、完成された作品の美そのものに観者の目を引きつけるということ

ろに、作家の力量が発揮されるといえます。また、ひとつの作品が出来上がるまでには、素材の選択、加工、成形、加飾と、複雑で長い工程を経、その時間の蓄積の結果として、ようやく完成された姿を見ることになるわけです。作者がどのようにして素材の持ち味、特性を活かしながら、磨きあげたわざを使って作品を作り上げたか、見る人が想像力を働かせながら鑑賞してみるのも楽しいのではないのでしょうか。



前史雄《竹叢》平成14年
石川県立輪島漆芸技術研修所蔵



中川衛《象嵌籠銀花器「夕映え」》平成23年
金沢市立安江金箔工芸館蔵

第7～9展示室

金沢学院大学 美術文化学部 第13回 卒業研究制作展

2月25日(木)～29日(月) 会期中無休

第7展示室

平成27年度 金沢大学

学校教育学類 美術教育専修 卒業制作展

2月18日(木)～21日(日) 会期中無休

絵画、彫刻、デザイン、美術科教育の各分野の学士課程による平成二十七年卒業作品を展示します。これらは、主に教職を目指す学生が、自らの学生生活の総決算として地道に努力を重ね、且つ創造的に研究し制作して完成させたものです。

未熟ではございますが是非ご覧下さいますようお願い申し上げます。そして忌憚のないご批評、ご助言をお願いします。

◇入場無料

◇連絡先／金沢市角間町

金沢大学人間社会学域学校教育学類
江藤望
電話：〇七六一二六四一五五八二

今年も、美術文化学部の二学科、芸術文化学科(日本画・洋画・陶芸・漆芸・学芸文化財)、メディアデザイン学科の卒業制作、および美術文化専攻科修了制作の成果を発表いたします。小さな学部ですから出品作品数は多くありませんが、一人ひとりの表現や解釈の多様性に今日の若者の感性や関心の傾向を読み取ることは楽しいことです。どうかご覧いただき、忌憚のないご批評ご感想をお伝え下さいますようお願い申し上げます。

◇入場無料

◇連絡先／金沢市末町一〇

金沢学院大学美術文化学部担当受付
電話：〇七六一二二九一八八〇三

2月の企画展示室

国画会(国展)は毎年春に国立新美術館で開催される歴史ある公募団体です。草創期の絵画部には梅原龍三郎、高村光太郎らが、写真部には野島康三、木村伊兵衛らがいました。

北陸国展は北陸在住者とゆかりのある国展出品者等で構成され、今年で二十二回展となりました。

近年、北陸国展での成果が国展での受賞者輩出につながっています。今回は絵画部二十四名、写真部二十六名が力作、大作を発表しますので、ぜひご覧くださいますようお願い申し上げます。

◇入場無料

◇後援／北國新聞社、テレビ金沢

◇連絡先／横江昌人(北陸国展事務局)
能美市秋常町二五一

二月の行事予定

■映画上映会		■土曜講座	
7日(日)	道 重要無形文化財「木工芸」保持者 灰外達夫 木魂 人間国宝 川北良造	6日(土)	「重要文化財 西湖園」の修復を終えて
14日(日)	土火への祈り 大樋焼十代 大樋長左衛門	13日(土)	浮世絵いろいろ
	(24分)	20日(土)	久保田米僊と同時代の画家
	(45分)	27日(土)	石川のやきもの
	美術館ホール 入場無料		西田孝司
	美術館ホール 入場無料		前多武志
	美術館ホール 入場無料		村上尚子
	美術館ホール 入場無料		高嶋清栄

第8・9展示室

第22回 北陸国展

2月18日(木)～22日(月) 会期中無休

友の会 会員募集

3月1日(火)から受付開始!郵送でのお申し込みは、郵便振替で現会員で継続を希望される方も、改めてお申し込み下さい。

一、会費 二,〇〇〇円

二、受付期間 三月一日(火)より開始。

三、入会手続 次のA、Bいずれかの方法。

A 直接来館してお申し込み

・会員証/その場で発行。

・場 所/一階情報・図書コーナー及び事務室

・申込方法/入会申込書に所定事項を記入して、

会費(現金)とともに提出。

・受付時間/午前九時三〇分~午後六時(休館日を除く)

※展示替えによる三月の休館日は、

二十七日(日)~三十日(水)です。

B 郵便局からのお申込み

・会員証/三月末から美術館日よりと共に郵送。

・申込方法/同封の払込取扱票に所定事項を記入し、最寄りの郵

便局(ゆうちょ銀行)窓口にて支払い。払込手数料は

申込者負担。

・注意事項/郵便局で払込をした方は、同封の申込書を郵送する

必要はありません。払込取扱票の受領証は、会員証

が送付されるまで大切に保管してください。

◇郵便局(ゆうちょ銀行)備え付けの振替用紙をご使用の場合、

口座番号・加入者・通信欄に左の事項を記入のうえ支払い。

・郵便振替口座/〇〇七〇〇—七—四六四九〇

・加入者名/石川県立美術館友の会

・通信欄記入事項/

年齢、性別、会員の区別(継続・新規・元)、職業、継続会員の方は現在の会員番号

四、その他

◇会員証の有効期限/平成二十八年四月一日~平成二十九年三月末日

◇会員証の対象/記名者ご本人のみ(ご家族の方との連名受付はありません)。

◇一度納入された会費の返金はできません。

◇会員証紛失による再発行はできません。

会員の特典

●コレクション展に無料で入場可(要会員証・会員ご本人のみ)

●企画展入場券進呈(春季・秋季・冬季・三回の企画展のいずれか二回に無料で入場可)

●企画展の開会式(開会式がない場合は初日の午前中)にご招待

●入館料の割引(要会員証)

①同伴者二名まで/コレクション展、企画展観覧料が割引

②会員ご本人のみ/石川県立歴史博物館、石川県七尾美術館、石川県輪島漆芸美術館、石川県九谷焼美術館、石川県能登島ガラス美術館、金沢21世紀美術館の各館主催展覧会を割引。

●館主催諸行事への参加

●館内カフェ「ルミューゼド'アッシュユKANAZAWA」にてドリンクの割引(要会員証、平日のみ)

●最新情報をお伝えする『石川県立美術館だより(本誌)』を毎月郵送



平成28年度 会員証(予定)

麩鹿文鉄打出菓子器 かもしかもんてつうちだしかしき

径22.0cm×高6.5cm 昭和3年(1928) 第9回帝展

米沢弘安 よねざわ・ひろやす

明治20年～昭和47年(1887～1972)



すんなりと手に収まる大きさの、円い鉄製の菓子器です。かぶせ蓋の中央部分には打ち出しで、カモシカの母親が二頭の子どもたちに乳を与える場面が表されます。長い角やスラツとした脚から、ニホンカモシカではなく、レイヨウ(羚羊)をイメージしているものと思われます。そのそばには涌きたつ雲とクロユリと思われる植物が添えられています。この場面の周囲を、紋様化された植物がぐるりと取り囲んでいます。カモシカ親子の真下にあたるものから時計回りに、ミヤマリンドウ、コマクサ、シロウマアサツキ、ツガザクラの四種類。いずれも高山植物です。

作者の米沢弘安は金沢生まれの金工職人。代々金工に携わる家系に生まれ、とくに加賀象嵌の優品を数多くのこしています。鉄打出で有名な山田宗美に私淑し、本作のような鉄打出に象嵌を施した作品も作っています。また、弘安は日本画家の玉井敬泉と親交が深く、自ら彼に絵を学んだり、作品のデザインを依頼したりしています。本作のデザインも敬泉によるもの。白山保全運動に熱心に取り組んだ敬泉らしいデザインとなっています。

速報

本年1月12日、金沢ゆかりの洋画家で文化功労者の脇田和氏(1908～2005年)の油彩画など317点を、長野県軽井沢の脇田美術館よりご寄贈していただきました。

寄贈作品は当館で4月24日～5月15日に開催する企画展でお披露目します。詳細は次号企画展Topicsをご覧ください。



脇田智館長(右)へ感謝状を贈呈

次回の展覧会

1F企画展示室(7～9展示室)・
2Fコレクション展示室(3～6展示室)

第72回 現代美術展
会期:4月2日(土)～4月19日(火)

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 360円(290円)
大学生 290円(230円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金
毎月第1月曜日はコレクション
展示室無料の日(2月は1日)

今月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00 年中無休

2月の休館日は
15日(月)～17日(水)

広告

片山津温泉
22種のお風呂で
おくつろぎ下さい
<http://www.kagakankoh-hotel.co.jp/>

日本海の海の幸や加賀の美食なら



〒922-0412 石川県加賀市片山津温泉ウ 41
加賀観光ホテル予約センター 受付時間 9時～20時
Tel. 0761-74-1101

石川県立美術館だより
第388号(毎月発行)
2016年2月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel: 076(231)7580
Fax: 076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>